

広報紙

日立市女性センター指定管理者（日立市らぼーる協会）



—日立市男女共同参画
社会シンボルマーク—

らぼーるひたち

第 132 号

発行

2013年1月



「父子野外料理」の開講風景



今年もよろしく
お願いいたします。



— お父さんと一緒に —



「SNS 講座」

子育て応援はもちろん、パソコンやビジネス能力検定受験準備講座をはじめ
“仕事をしたい方”も応援しています。

■子育て世代への支援事業を充実

■新しい講座開設とDV支援事業

■新島八重の生きた時代と日立

■講座のご案内

■Heart to Heart ～日立市女性センター友の会グループ紹介②～

■女性生活相談のご案内

■お知らせ

子育て世代への支援事業を充実

らぼーる協会は、子育て世代の支援を行っています。今年度も託児付で事業を行い、特に「ママの手づくりシリーズ①

『ママの手づくりシリーズ』は子育て中のお母さんたちが、生活の中で活かすことのできるものを手づくりしながら、コミュニケーションも深めてもらうことを目的として、平成23年度から実施しています。

料理や季節に合った小物づくりなど4回

「手づくりシリーズ パート②」参加者作品より



スクラップブックングを楽しみました。

コースで、各回とも楽しめる内容を企画しています。また、この講座は託児を無料で実施していることから、参加者からは「安心して講座に集中できる」などの声が寄せられました。子育て中のお母さんたちが安心して取り組める時間を過ごすことも、支

～④」や「父子^{おやこ}野外料理」など、より充実した内容の提供と、“子育て”に対する多面的支援を目指しています。

援の大切な要素だと感じます。

7月に会瀬青少年の家・野外炊飯場で行った「父子^{おやこ}野外料理」ではボーイスカウト指導者を講師に、ピザ作りを楽しみました。野外で調理する時の基本をはじめ、災害時の適応の仕方を学んだり、火起こしやレクリエーションのすいか割りで力を発揮するお父さんたちの姿に親子の交流も深まり、多くの成果を上げた講座となりました。

らぼーる協会では来年度も、みんなが元気になるような企画をしていきます。

「父子^{おやこ}野外料理」風景



火起こしから始めました。

新しい講座の開設とDV支援事業

話題のツイッターやフェイスブックの正しい使い方を学び、楽しく活用できるようにと「SNS講座」を開設しました。この講座は茨城大学工学部米倉研究室の協力で、6月から7月にかけて全7回のコースで行われました。

申し込み開始と同時に応募が殺到し、9月には追加講座を実施しました。

安全で基本的な使い方を覚え、様々な情報交換ができるようになったと大変好評でした。

らぼーる協会が設立当初から継続して行っているDV支援事業。14年目となる今年度は昨年8月8日、NPO法人・湘南DVサポートセンター代表の瀧田信之さんを講師に迎え、「DV子どもの行動から見えてくるもの」をテーマにセミナーを開催しました。

毎年、市民の他に県内各地から人権擁護委員や支援団体、相談窓口や行政の担当者などが参加していますが、積極的に学校や地域にも呼びかけ、連携の輪を広げています。



新島八重の生きた時代と日立

【社会の動きと日立市】

■ペリー、浦賀に来航 1853年

・折笠、会瀬、河原子、久慈に砲台設置。

■安政の大獄はじまる 1858年

・河原子村の黒沢五郎らが坂下門外の変に加わる。

■維新政府ができる 1868年(明治元年)

・1871年(明治4年)廃藩置県で茨城県誕生。
・1874年(明治7年)日立地方に32の小学区が設定される。

■大日本帝国憲法公布 1889年(明治22年)

・市制・町村制施行。町村合併が実施され宮田・滑川村が合併して「日立村」に。

■日清戦争 1894年(明27)～1895年(明28)

・1895年(明治28年)茨城県沿岸に大津波で日立地方も被害。
・1897年(明治30年)水戸―平間に常磐線開通。助川、下孫、大甕駅が開駅。

■日露戦争 1904年(明37)～1905年(明38)

・1905年(明治38年)久原房之助が日立鉱山を創業。

■第1次世界大戦 1914年(大正3年)～1918年(大正7年)

・1915年(大正4年)日立鉱山に大煙突完成。
・1920年(大正9年)株式会社日立製作所が独立。

■1927年(昭和2年)金融恐慌始まる

・県立高等女学校(現：日立二高)、日立中学校(現：日立一高)開校。

参考：「日立市史」上・下巻、「同志社大学 新島八重と同志社」

【新島八重】

■誕生 1845年11月3日

・会津藩の砲術師範であった山本権八・佐久夫妻の子として誕生。



■戊申戦争に参加

・兄の覚馬から砲術の指南を受ける。
・戊申戦争の籠城戦で狙撃兵となって戦う。

■新島襄との出会い 1871年(明治4年)

・京都府顧問の兄・山本覚馬を頼って上洛。兄の推薦で京都女紅場(現在の京都府立鴨沂高等学校)補助教師・舎監となる。
・兄と親交のあった新島襄と知り合い婚約。

■同志社英学校(現：同志社大学)と八重

・1875年(明治8年)同志社英学校開校。
・1876年(明治9年)新島襄と結婚。京都初の日本人同士のキリスト教の結婚式を挙げる。
・1877年(明治10年)同志社分校女紅場(後の同志社女学校)開校時に礼法の教員となる。
・八重の言動が周囲との^{あつれき}軋を生むが、夫婦仲は良く、襄は友人への手紙に「彼女は生き方がハンサム」と記す。
・1890年(明治23年)襄が病気で急逝。
・京都に女性向けの茶道教室を開き自活。
・日清・日露戦争で篤志看護婦となり、その功績で昭和天皇即位大礼で銀杯を賜る。
・1932年(昭和7年)自宅にて死去(86歳)。同志社葬として2000人が参列。

明

治

大
正

昭
和

男女共同参画セミナー

「日本の歴史を 男女共同参画の視点で眺めてみれば…」

日時 平成25年3月16日(土)
13:00～15:00

内容 古代から近代、現代に至る日本の歴史を男女共同参画の視点から学ぶ

講師 平井和子さん(女性史研究家)

参加料 100円

定員 50人

申込み 随時

講座のご案内
(託児無料)

歴史講座

「八重の桜」と茨城の女性たち

日時 平成25年2月14日・21日(木)
13:30～15:30

内容 ①新島八重とその時代
②自立をめざした女性たち
～黒澤止幾、豊田英雄、椎名比天～

講師 笹岡明さん(高萩市文化財保護審議会委員)

参加料 1,100円

定員 30名

申込み 1月29日(火)9:30から

かけがえのない心をつないで

Heart to Heart

昨年のことです。日立梅ヶ丘病院の関係者から日立市女性センター友の会のグループに「ぜひ、演奏をお願いしたい」との声がかかりました。そこで、100人近い観客を前に楽しい演奏会を催し、音楽の輪を広げてきました。今回は、その4つのグループを紹介します。

発足／講師（敬称略）／会員数／活動曜日

ハーモニカセブン（ハーモニカ） ～毎月1回どこかでボランティア～
童謡・歌謡曲など懐しいメロディーを、ベース・コード・第1・第2ハーモニカで四重奏。ご存じ、「北国の春」ではメロディと歌声で会場が一つになりました。

H13年10月/小西健司/12人/火曜日



ケー十の会（ケー十） ～中南米楽器は雄大で明るくおおらかに～
ケー十は、葦や篠などでできているアンデスの縦笛です。「コンドルは飛んでいく」ののびやかな響きに遠い山々を想い、懐かしい歌を全員で歌って楽しい時を過ごしました。

H15年2月/鈴木弘道/18人/金曜日

さくら奏の会（箏曲） ～優雅な音色でゆったりと～
子ども時代に歌った「ふるさと」を箏の音色に合わせて歌ってみると懐かしい風景が見えてきます。“お箏”についての質問も飛び出し、日本の伝統文化を身近に感じていただけました。

H6年10月/澤俊子/8人/木曜日



ギターは友達（クラシックギター） ～クラシックから童謡まで～
優しい曲から物悲しい曲、元気な曲から楽しい曲。繊細なギターの音色で奏でる「埴生の宿」は歌声と一緒に、女性センター祭りで発表した曲を含め約20曲を演奏しました。

S54年10月/桜山隆雄/8人/金曜日

お待たせしました！

鮎川体育館は、H23.3.11以来休館しておりましたが、耐震補強工事も順調に進み、

3月より貸出開始

らぼーる協会にお問い合わせください。

女性生活相談のご案内

日常生活の中で生じるさまざまな家族の問題や近隣とのトラブル、悩み事や困っていることなどがある方はご相談ください。

時間：月曜日～金曜日 第2・4土曜日

10時～12時・13時～16時

内容：結婚、離婚、隣人関係、夫婦の問題、D・V問題 他

電話：35-2215（面談もできます）

●発行／日立市らぼーる協会（日立市女性センター内）

〒316-0036 日立市鮎川町1-1-10 Tel 36-0554・Fax 38-2460

ホームページ <http://www.raporthitachi.jp/> ツイッター @rapport_hitachi